
私これでも魔道師ですが？

羽後響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私これでも魔道師ですが？

【Nコード】

N2208Z

【作者名】

羽後響

【あらすじ】

平凡な中学生の「川上麻里香」はとんでもないかたちで幼馴染「平沢可奈子」と再会する。だが、可奈子は魔道師学校の生徒であった。母も魔道師だったことを聞かされた麻里香も、魔道師学校へ入学することになってしまった。

第1章 私はこれでも凡人ですが？（前書き）

偶然書いてみました。

できれば「こうしてほしい」「」の字が間違っている。「などのコメントをいただきたいと思っております。

こういうの書くの初めてなもので・・・

第1章 私はこれでも凡人ですが？

「どうしよう・・・間に合うかな？」

真夜中の月に照らされながら、真つ暗な住宅街を走っていく少女がいた。

名前は「川上麻里香^{かわかみまりか}」。中学2年生だ。

小柄で、色白、茶色い髪をツインテールにしている。

最新ゲーム機を買ったために並ぼうと、電化製品店行く最中だった。

突然、

ズバッ！！という大きな音が聞こえたと思ったら、

「うがつ！！」と声をあげながら女性が目の前に飛んできたのだ。

「きゃっ！！！」

麻里香はびっくりして悲鳴を上げた。

何とその女性は大量に出血していたのだ。

「大丈夫ですか！？」と女性に声をかける。

苦しそうに女性は目を開けて、

「うっ・・・早く逃げないと・・・またあいつが・・・」

麻里香はこの女性が、なにか犯罪に巻き込まれたのかと思い警察に連絡する。

警察が2人すぐに駆け付けたが、女性は

「来てはだめ！！もうあいつがそこまで！！なっ！！？」

ズバツ！

麻里香はさつき聞いた音だと気付き、振り向くと警察が2人ともいなくなっていることに気がつく。

「え……？何が起きたの？」

驚いた表情を浮かべる麻里香に誰かが近づく。

バキッ！！

鈍い音が響く。

麻里香が振り向くと、さつきの女性が突然現れた化け物の刀を真っ二つにへし折って、

「これ以上近づくな！次は確実に殺す！！」

とさつきまで倒れていた彼女とは思えないような恐ろしくどすの利いた声で威圧すると

男は何も言わず一瞬で消えた。

「大丈夫だった？」

女性が近づいてきて気遣うが、麻里香にとっては聞き覚えのある声だった。

「あれ？もしかして、可奈子？」

「え……？麻里香だったの！？」

二人は知り合いだった。

というより、幼馴染だった。

名前は「平沢可奈子」。

外見は長身で金色のロングヘア。

小学4年の時に大きな事故に巻き込まれて、治療のために外国へ行ったということしか聞いていなかった。

「ところで、可奈子。さっきのが何だったのか説明してくれるよね」
「？」

「うん。でも、明日でいいかな？ちょっとひどくやられてさ。」

「あ、そうだったよね。無理させてごめん。」

次の日、可奈子は麻里香の家にやってくる。

ピンポン

「あらどなたかしら？」

麻里香の母が出てくる。

「お久しぶりです。可奈子です。あの、つまらないものですがこれどうぞ。」

「あら、可奈子ちゃんだったの！？去年以来ね。上がって。」

「その前にお母様。お話があります。」

「あら、どうしたの？かしこまって。」

「実は、麻里香にーあれーを見られてしまっで。」

「そうだったの・・・そろそろ話す頃合いかもね。」

そう言って2人で麻里香の部屋に入った。

「あ、麻里香。昨日のことちゃんと話しに来たの。」

「可奈子・・・でも、なんでお母さんまで？」

「実は、お母さんも関係あるのよ。」

そしてあの化け物についての話を始める。

「実は、昨日のあれは人が魔道師としての力に溺れてしまったなれの果ての姿なの。」

「は？可奈子・・・それ本気で言ってるの？てか、魔道師って何？」

「魔道師っていうのは特異な性質をもった人間のことで、言ってみれば魔法使いみたいなもの。」

でも、その力は人それぞれなの。私で言うと敵の体力を吸収できる力で「アブゾーブ」と呼ばれているの。もうひとつは体を部分的に石化できる能力で「ペトリファクション」と呼ばれてる。」

そんな感じの能力を使ってあの化け物を殺す仕事なの。夜行性だから、夜にしかないけど。それと、事故があって転校したことになってるけど、今は魔道師養成学校在学中なの。」

「信じられない・・・」

麻里香は啞然とする。確かに自分の前で起きたことなのだから事実ではあるが、ファンタジーの世界でしか見たことのない「魔法」のようなものを使う人間が幼馴染なのだから。

母が声をかける。

「麻里香。あなたは気づいていないかもしれないけど、あなたはもう魔法を使えるの。私の能力を受け継いでるみたいで、おもに射撃系の魔法が使えるはずよ。だから、可奈子ちゃんとがんばってね！」

それを聞いて麻里香は気づいた。

「て、ことは・・・私、魔道師養成学校に行けっこと!？」

「そうです!」

麻里香の母と可奈子が見事にはもってうなづいた。

「あと、校長が可奈子ちゃんのお母さんだから、失礼のないようにね?」

そんなこんなで突然魔道学校へ転校となってしまった。

麻里香は未だに半信半疑のまま転入の日を迎えるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2208z/>

私これでも魔道師ですが？

2011年12月7日23時55分発行